



Title	社会包摂デザインと社会包摂デザイン・イニシアティブの活動
Author(s)	尾方, 義人
Citation	デザイン理論. 2022, 79, p. 80-80
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86323
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

社会包摂デザインと社会包摂デザイン・イニシアティブの活動

尾方 義人 九州大学大学院 芸術工学研究院

九州大学大学院芸術工学研究院に、「社会包摂デザインイニシアティブ」という名の組織が設立されました。わたしは同組織の立ち上げから運用まで関わってきたことから、シンポジウムの土台として、社会包摂と社会包摂デザインについて説明させていただきます。

社会包摂とは、障害、性、国籍、貧困などの理由で社会から阻害されてきた人たちを含めた、あらゆる人たちの存在が尊重される社会のあり方を指します。このような包摂型の社会を実現するためには、従来とは異なる方法で、もの・こと・サービス・社会制度を「仕組み」としてデザインし、社会実装していくことが不可欠です。社会包摂デザイン・イニシアティブは、多様なニーズに応じたサービスを提供し、個人のポテンシャルを引き出すための「仕組み」をデザインすることで、健全な成長や、豊かさの新しい価値を生み出す社会づくりを先導することを目標としています。

今日、デザインという分野は、対象の面からも、方法の面からも、大きく変容しています。また、デザイン対象となる課題も、コロナによる急激かつ複層的な社会の変化を上げるまでもなく、ジェンダー、LGBTs、プラスチック、超高齢化、疾病、貧困の多様化、労働など様々対象に広がりました。その多くが、対象そのものを変えることが困難な課題です。そのためには周辺の仕組みや概念、方法論そのものを変えていかなければなりません。そのような、デザイン方法とデザイン対象の多様化により、社会包摂デザインという考え方が生まれました。

社会包摂は難しく複雑な概念なのですが、ここでは「多様性と包摂性」として説明します。多様性と包摂性を別々に説明しがちですがこの2つは連関している事項です。多様と言っても、単に「い

ろいろある」とか「混ざればいい」とかそういうのではなく、また「配慮」や「支援」も含まれますがそれだけではなく、各々が自身をしっかり保ちながら、互いに尊重しあって影響し合うことで、よりよい創造的ななにか(変化)が生まれだろうという方法的概念が社会包摂デザインと考えています。

今後具体的なプロジェクトを通して、「デザインの対象(成果物とユーザー)」と「デザインの方法(思考法や設計法)」を「多様性と包摂性」から社会包摂デザインを考えていくことで、概念と方法論を構築していきたいと考えています。そのための組織としての、社会包摂デザインイニシアティブは、問題が何かを明らかにし、提起する「ソーシャルアート・ラボ」、解決のための枠組み・方法を作り問題解決を目指す「シビックデザイン・ラボ」、内外の情報の蓄積・発信や対話とそれを通じた教育などを行っていく「デザイン・シンクタンク」で構成されています。

初年度の具体的なプロジェクトとして「舞台芸術と音響技術による社会包摂のデザイン」「共創的アート活動を通じた認知症ケアのコミュニケーションデザイン」などのアート関係、「ジェンダー/LGBTsのデザイン」や「多様な色覚特性を持つ人に伝えるためのデザイン」など多様性をテーマとしたものに取り組んでいます。

これら様々なプロジェクトをとおして、具体的な方法の蓄積とその客観化、具体的な実践同士の連携、具体的な方法論の外在化、社会への情報提供・問題提起などを行っていきます。最終的には「社会的処方」として具体的に(システム、メカニズム、アルゴリズム、アキテクチャー、プラットフォーム)社会に提供していくことを目指しています。